

● 学会発表の内容

胚移植後の安静の有無が妊娠率や流産率に影響するか

医療法人社団 徐クリニックARTセンター

清須 知栄子 今井 智子 伊藤 真理 新居 遙 菅原由貴 八木 香菜子 徐 東舜

■ 【目的】

胚移植後、特別に安静にしない方が妊娠率や流産率はむしろ良好であるという報告がある。そこで、胚移植後の安静の有無が妊娠率や流産率に影響があるかどうかについて前方視的に検討した。

■ 【対象】

2013年10月25日から2013年12月27日の期間に胚移植を実施し、安静の有無をアットランダムに選別した115症例を対象とした。安静群は58症例（平均年齢：37.8 ± 4.0歳、AMH値：2.73 ± 2.62 ng/mL、Day3 FSH値：7.6 ± 2.7 mIU/mL、既往移植回数：1.8 ± 2.1回）、非安静群は57症例（平均年齢：37.9 ± 4.2歳、AMH値：2.29 ± 2.47 ng/mL、Day3 FSH値：6.9 ± 1.9 mIU/mL、既往移植回数：2.2 ± 3.1回）であった。

■ 【方法】

安静群は胚移植後30分間ベッドで安静にし、非安静群は胚移植後すぐに帰宅した。その後、各群の妊娠率や流産率等を比較検討した。

■ 【結果】

全体の安静群と非安静群の成績は、妊娠率43.0% (25/58) vs. 42.1% (24/57)、流産率20.0% (5/25) vs. 20.8% (5/24)、着床率29.8% (28/94) vs. 30.3% (27/89)で、両群に差はみられなかった。さらに、良好胚（3BB以上）のSETでの安静群と非安静群の成績は、妊娠率52.6% (10/19) vs. 51.9% (14/27)、流産率10.0% (1/10) vs. 14.3% (2/14)で両群に差はみられなかった。

■ 【結語】

胚移植後の安静の有無が妊娠率や流産率に影響しないことが確認された。